

水木しげるの妖怪 百鬼夜行展～お化けたちはこうして生まれた～

そごう美術館(横浜駅東口) 24.01.20～03.10



本展は、「水木しげる」(1922～2015) 生誕 100 周年を記念する催事で、代表作『ゲゲゲの鬼太郎』をはじめ多くの妖怪作品を生み出した。「妖怪」という言葉が一般に広がるきっかけを作ったのみでなく、その後も長きにわたって「妖怪ブーム」の原動力を担い続けた「水木」が描いた日本の妖怪作品は実に「1,000 点」近くにのぼる。

今回の展示は、“その妖怪画制作の具体的手法に注目し、豊潤な作品世界を解き明かす内容”となっている。

《あかなめ》



だれもいない夜に、風呂場にあらわれて、あかなめをなめる妖怪がいる。ただなめるだけで、なにをするわけではないが、妖怪が家の中に入ってくるということは気持ちのよいものではない。

これが妖怪「あかなめ」だ。あかなめがあらわれないようにするには、風呂おけをいつもきれいにして、アカをためないようにしなければならない。このように「あかなめ」は、教訓的な意味をもつ妖怪といえる。

《海坊主》



広い海をわたる船の前に突然立ちはだかる巨大な坊主頭の物体、これが「海坊主」という妖怪である。大きさは2mくらいから大きなものは30mを越えるという。

海坊主が現れるのは、何か悪いことが起こる前触れであるとされている。

《一反木綿 (いったんもめん)》



昔、鹿児島県に現れた妖怪で、一反の長さが10mほどの木綿の布がヒラヒラと空を飛んでいる。見た目は、全く恐ろしくはなく、洗濯物が風にあおられて飛んでいるくらいにしか思わない。ところが、これが人を襲うとされているが正体不明である。